

急性期リハビリテーション

■早い時期からの積極的なリハビリテーションの提供

急性期とは、病気になった直後や手術直後など病状の安定のために積極的な治療を施す必要がある時期を言います。医師、看護師を始め様々な職種が連携をとりながら患者様の状態を観察しています。近年では医療の進歩に伴い過度の安静を減らすようになってきています。安静が長く続けば体力や筋力の低下を招き、起き上がることも大変になる事があります。そのため医師の判断により、入院後早い時期から身体機能を低下させないようにリハビリテーションを行うのです。

当院での急性期リハビリテーションは、**院内ほぼ全ての診療科より指示**が出されています。病気になり直ぐのリハビリテーションは病室(ベッドサイド)が中心になり、医師・看護師などとの連携を特に強め、状態の観察を行いながら**理学療法・作業療法・言語聴覚療法**を実施し離床を進めていきます。その後、病状の安定に伴い機能訓練室でのリハビリテーションが開始されていく事になります。

理学療法士



作業療法士



言語聴覚士

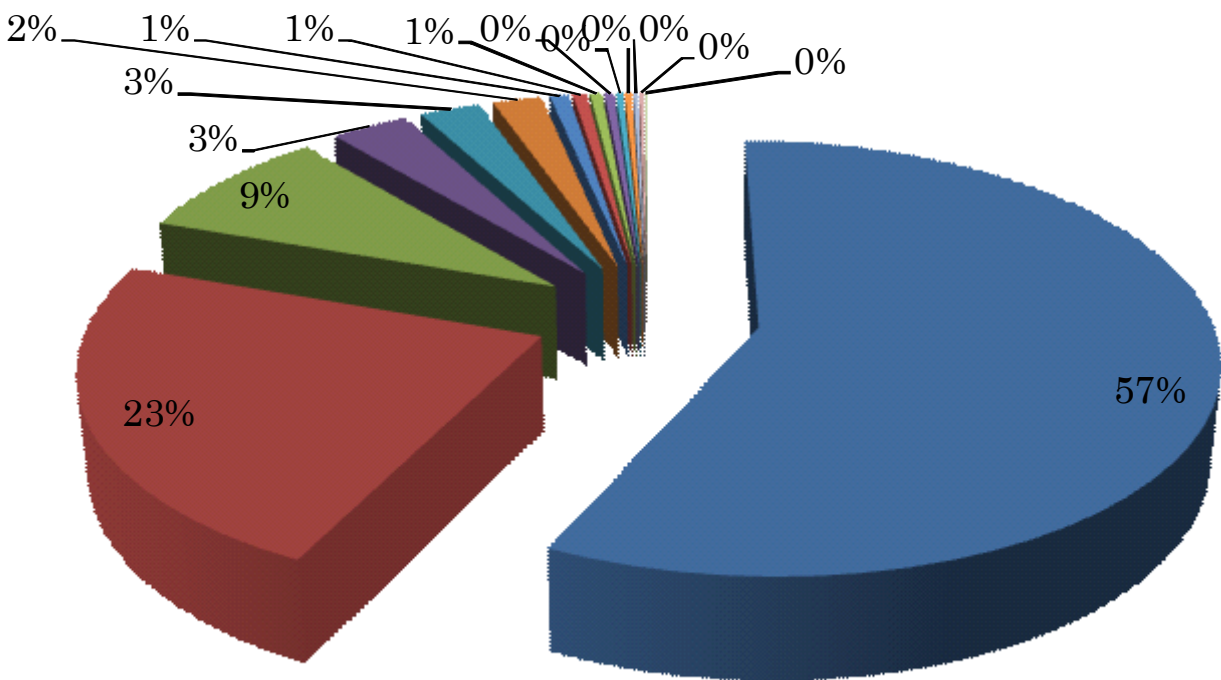


平成 21 年度実績

平成 21 年度の診療科別リハビリテーション依頼件数、疾患名について以下に示します。

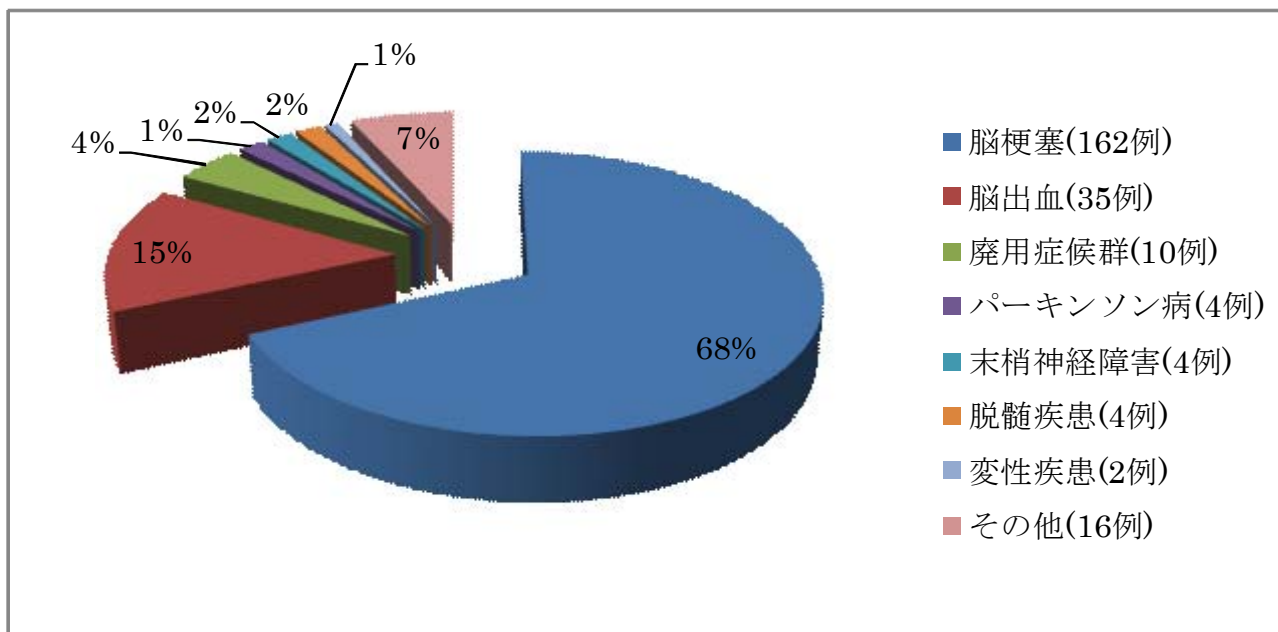
平成 21 年度 リハビリテーション依頼件数 合計 1022 件

診療科別 リハビリテーション依頼

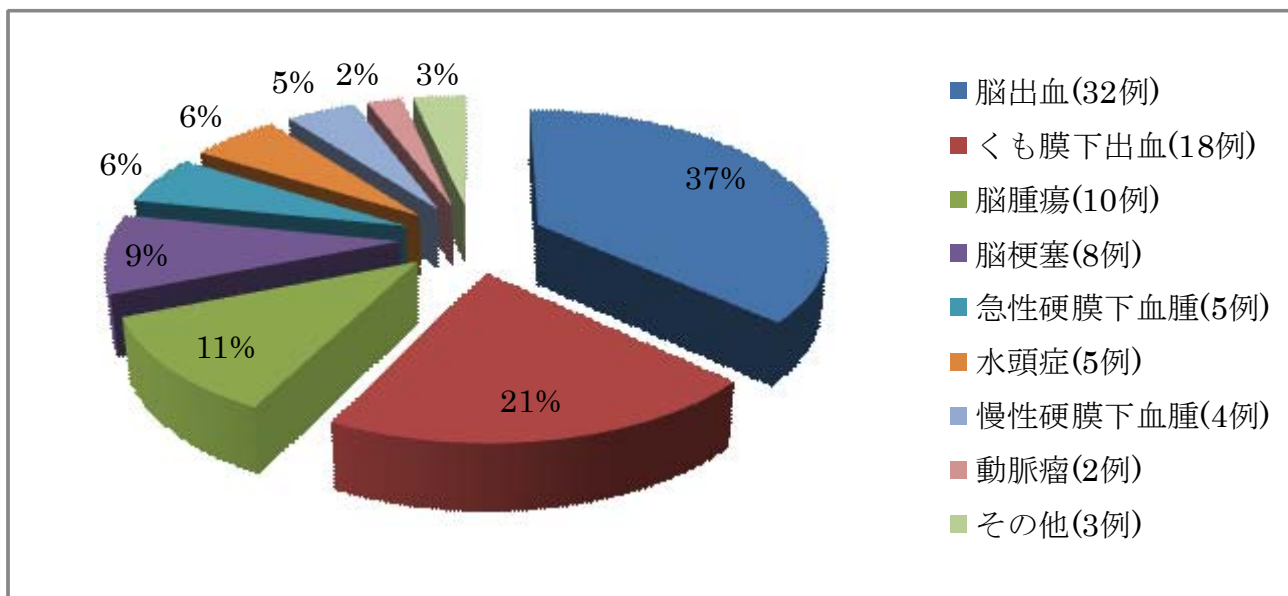


- 整形外科(584件)
- 神経内科(237件)
- 脳神経外科(87件)
- 消化器内科(33件)
- 外科(26件)
- 呼吸器内科(21件)
- 耳鼻いんこう科(8件)
- 循環器科(6件)
- 血管内科(5件)
- 皮膚科(4件)
- 腎臓内科(3件)
- 口腔外科(3件)
- 泌尿器科(2件)
- 小児科(2件)
- 婦人科(1件)

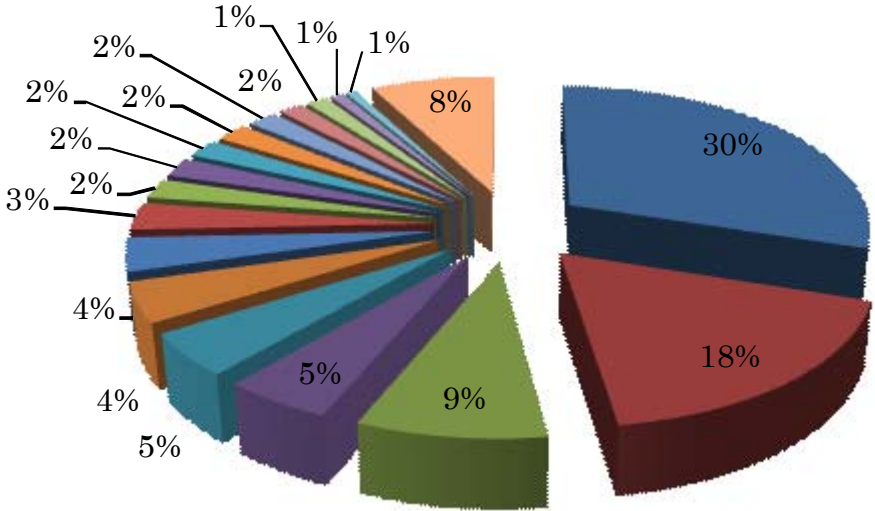
神経内科 疾患割合



脳神経外科 疾患割合



整形外科 疾患割合



- 大腿骨近位部骨折(175例)
- 腰椎疾患(104例)
- 膝関節疾患(50例)
- 下腿骨折(29例)
- 前腕骨折(28例)
- 上腕骨骨折(26例)
- 頸椎疾患(22例)
- 胸椎疾患(18例)
- 足関節骨折(13例)
- 踵骨骨折(13例)
- 股関節疾患(12例)
- 大腿骨骨折(12例)
- 骨盤骨折(11例)
- 足趾骨折(9例)
- 鎖骨骨折(8例)
- 手指疾患(5例)
- 肩関節疾患(4例)
- その他(45例)

急性期リハビリテーションの取り組み

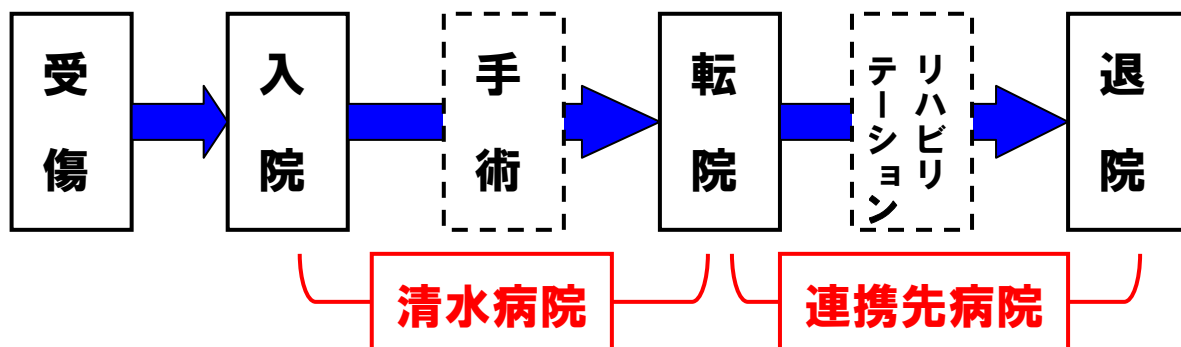
急性期リハビリテーションでの取り組みについて紹介いたします。

■大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスの実施

平成 20 年 1 月より静岡市内 4 病院と連携し大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスを導入しています。

大腿骨頸部骨折の患者様に対して当院にて手術を行い、3 週間の入院後連携先病院に転院し術後のリハビリテーションを行う病院間での連携を図っています。

《地域連携クリティカルパスの流れ》



《連携先病院》
静岡リハビリテーション病院
静岡リウマチ整形外科リハビリ病院
静岡リハビリテーション病院
山の上病院

注) 当院でのリハビリテーションは手術前より実施いたします。

大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスは患者様の病態によって適応とならないことがあります。

■カンファレンスの実施

医師、看護師、リハビリテーションスタッフにて患者様の状態、方向性についてのカンファレンスを行っています。医療チームで情報を共有することにより、より質の高いアプローチを実施できるように検討する場となります。